

# 春の交流会（初日）

中野区 小田切松枝（北城町出身）

春になると、物の芽が膨らみ、子供達もひと回り身体が大きく元気になる感じがします。桜前線日本列島北上の中、ふるさとの桜の下、Jネット春の交流会が、四月十一日（日）から十三日（火）まで、地元会員と合せ三十九名の参加をいたたきお互いの交流を深めました。

初日の十一日は、あいにくの雨模様の中、本城町の「なかしま食堂」に二時集合、会には村山秀幸市長も出席され、「ふるさと上越へお帰りなさい」とあたたかな挨拶をいただき大変感激いたしました。マジックショウを見ながらふるさとの味を食し交流を深めました。が、あまりの寒さにびびくりしました。

ふるさとの桜の下に酒酌まを

越後路の花のはるかに妙高山



四時にバス出発

本酒は特に合うようです。  
次に素敵と思ったのが、「折紙カレンダー」折紙で表現した一年の田仕事カレンダーです。

「酒のみカレンダー」  
美しい日本語に「ころが和らぎ暖かな気分」にさせられました。

一月から十二月まで、屠蘇、雪見酒、白酒、花見酒、菖蒲酒、夏越の酒、七夕酒、涼み酒、月見酒、紅葉酒、祝酒、冬至酒、まさに、私達は今年花見酒が少し残っているようです。

酒蔵をあとに、今晚の宿、米本陣へと車を走らせました。

川底の石を晒して雪解水



四月十二日（月）雨

花冷えの頰城平の朝茶かな

八時三十分米本陣出発

牧歴史資料館

宮口古墳出土品や、牧区に残る貴重な民族資料を後世に伝えるために一九八三年に開館しました。宮口古墳群も近くにありますが、雨のため見学は中止です。ここを整備するにあたり、土地所有者の農民の方々の心の動きがあり、解決するまでには紆余曲折があったと説明されました。今は市内の小学生の格好な遠足の



場所であるとのこと。特に新緑の頃、一面に緑の絨毯となり、古墳の上から滑り下るのが、子供達は大好きなのだそう。子供達が、嬉々として古墳と戯れる声と姿が目につかぶようです。

ここには仏像が安置されており、幾度の戦禍を逃れ、村人達に守られここに在す仏像に掌を合わせました。さぞかし安堵され在すことと思います。

ガイドは久米満さん、中学のクラスメートで五年ぶりの再会です。

### 里人の秘中の秘仏花の寺

花は葉に包まれ速くなるばかり



### 清里歴史民族資料館

六千年前、この台地に人々が住み、石で道具を作り、土器を焼き、魚や動物、野山の草木の実をとって生活していた先人達の残してくれた文化を大切に、後世に伝えたいと考えています。と館内を案内して下さった方のメッセージです。

### 燃える水・石油

明治時代、清里を中心とした地域では、頸城油田で最多の石油を産出し、日本で最初のパイプラインにより送油されました。

### 檜池の隕石

大正九年九月十六日、晴れた日、夕刻六時頃、南方より北方に「ゴオン」という音に村人達はおどろき戸外に出、空を見上げたが何も見えず、ただ一條の光だけでした。小学校の先生が隕石で星の落下したものと断定されました。落下地点、清里区上中條五八四、全重量四・四二kg「宇宙からのメッセージ」として大切に保管されております。

隕石とお別れして、次の見学は岩の原葡萄園です。

### とぎれては狭く集落本の芽雨



### 岩の原葡萄園・貯蔵庫の中へ

ワインは樽に入れ、熟成することにより、渋みが弱まり、ぶどう本来の持つアラマ（果実香）とブーケ（熟成香）が加わりすばらしい芳醇さと、まろやかさが発揮します。

「どの位の場所に寝かせておくか？」  
「この樽で、ビン詰にする」とどの位の数か？」

「樽は国産か輸入品か？」等々の質問に社員の方が一つ一つ丁寧に答えて下さいました。雪室も見学させて頂きました。オー寒い寒い、全員ブル、ブル、ほんのわずかな時間で退散です。古くて新しい雪の利用です。入口近くに応用微生物学者・坂口謹一郎氏の歌碑があります。頸城区に坂口記念館があり、博士の遺品や業績の紹介、酒造道具の展示のほか藏人の話を聞きながら試飲もできるそうです。

私は川上善兵衛が全財産を投げうってぶどう産業を興した位の知識しかありませんでした。展示室の見学は確り時間をかけてと思ったのですが、限られた時間内での私のレポートです。大地主の子として育ちながら小作人との生活の差に気づき、小作人をうるおそうと思ったのが切っ掛けでした。親戚にあたる人の塾に入門します。そこは春日村にあり全寮制です。いっしょに暮らす同級生はほとんど小作人の子供でした。この時に自分の生活は小作人の犠牲によってなりたっている実感するので。昔から越後には「三年一作」という言葉が伝えられてきました。そして折角とれた米も味が非常に悪く「鳥またぎ米」などといわれまし

た。善兵衛はこうした須城平野の地主の家に生まれました。しかし善兵衛は普通の地主とは違っていました。彼は小作人に同情し、なんとかして小作人の暮らしをよくする方向はないものかと考え、そしてこれまで米より外のものとは作られることもなかった土地の一角にぶどう園を開きぶどう酒の産業を興しました。この産業の計画は、不幸なことに、結果的には失敗に終わり、先祖代々受けつがれて来た川上家の莫大な財産は失われてしまいました。しかし善兵衛の行った、ぶどうに関する数々の研究は、専門の学者達をびつくりさせ、彼の生み出した多くの新品種は、ぶどうの本場である山梨県をはじめ各地に広まり、その後の日本ぶどう栽培を大きく発達させたのでした。越後の米ですが、稲作は不安定で味も悪かった米を、農事試験場で善兵衛がぶどうについて行ったと同じようにメンデルの法則をつかって品種改良をはかったのです。とうとう越後平野によく育つ、しかもおいしい稲を生み出すことができました。そして越後は一躍にして、名実ともに「日本の米どころ」といわれるようになりました。善兵衛は事業家としては失敗しましたが、科学者としてはみごとに成功したのでした。



岩の原葡萄園資料館にて

善兵衛さんの苦勞が凝縮されているワインを試飲し昼食会場へ、途中に川上善兵衛住居跡の碑が春雨の中、ひっそりありました。昨今のワインブーム、特に女性に人気がありますが泉下の善兵衛さん、どんな顔してどんな思いで現世をみていらつしやるのでしょうか？

本日の昼食はバイキングです。雨模様の中、少々寒いという感じはしたのですが、おなががいっぱいになると、身体が暖かくなるようですね。地元産の春野菜美味でした。

十二時三十分岩の原葡萄園出発

里訛やさしくつつむ花の跡  
一粒のチヨコのおまきや花殻れ

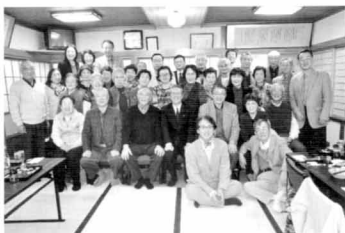
一時 直江津駅着 解散

自然を肌で感じ、土地の人の温もりに触れ、歴史と文化を知る。その土地の懐に深く分け入れれば、ふるさととはこんなに面白い、そして楽しく暖かい。

さよならは次への一步の花吹雪く  
ふるさとや花また花ののす



マジックショー



交流会参加者全員で



「なかしま食堂」での交流会